

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
北海道リスタート事業
～社会的居場所を失った人に新たなつながりを(休眠預金等活用法助成)

北海道室蘭市 大人と子どもの居場所 「クルハウス」



居場所をはじめたきっかけは

北海道室蘭市大人と子どもの居場所「クルハウス」は、令和２年度「北海道リスタート事業」～社会的居場所を失った人に新たなつながりを（休眠預金等活用法助成）に採択され、令和３年２月１日からスタートしました。

居場所をはじめたきっかけは

北海道室蘭市において、子どもや大人の孤立化が進んでいることです

子どもでは

- ・ 放課後学校から帰ってきてひとりぼっち
- ・ 親が帰って来るまではひとりぼっちで留守番
- ・ コンビニ弁当等をひとりぼっちで食べてようやく帰宅した親に色々話したい・・・親も疲れている
- ・ 勉強がわからないから色々聞きたいが聞ける大人がいない
- ・ 色々友達と遊びたいが遊ぶ場所がない

大人では

- ・ なかなか就職が決まらない。相談相手がいない
- ・ 非正規雇用でいつ仕事がなくなるか不安
- ・ 学校を卒業してから引きこもっていて誰かとコミュニケーションしたい

居場所をはじめたきっかけは

室蘭市は、最盛期 18 万人の人口を擁していました。令和 2 年には 8 万人となり、学校の統廃合や過疎化が進んでいます。その中で子どもや大人に割ける行政予算も下がっています。

「孤立化に対して居場所「クルハウス」を開設し、孤立化で悩んでいた
り、苦しんでいる子どもや大人にいろいろな支援を行い、孤立化という
社会問題を解決して行きたい。」

室蘭市には、常設型の居場所がなかったので、孤立化する子どもや大人に対して、居場所「クルハウス」を立ち上げました。

居場所を室蘭市全体として必要としている子どもや大人に届けたいと思います。

居場所開始～



事業には「生みの苦しみ」「育てる喜び」があります。居場所をどこの場所にするのか？からスタートした本事業は様々な方の協力により1年を迎えることができました。場所・物・人を紹介します。

居場所開始～（場所）

日) 室 蘭 民 報



居場所開始～（物）

「物」は、当初、ほとんど備品はありませんでした。廃校になった近隣の小学校から机・椅子・黒板などをいただき、その他の備品も揃えました。勉強教材、遊びの時間に一緒に時間を楽しむボードゲーム等も揃えました。



居場所開始～（人）

「人」は、管理者・相談員・経理スタッフ・近隣にある室蘭工業大学の学生の有償ボランティアスタッフの体制です。教員志望の学生が中心です。学生は学習支援・遊び支援・体験活動の支援を行います。人集めは新聞・室蘭工業大学生生活協同組合のアルバイト募集の掲示板やインターネットサイト等を使用しました。



居場所（活動記録（子どもの居場所））

子どもの居場所については2月1日から12月25日まで113回実施し、のべ264人の利用者を迎えることができました。居場所は月15回開催を目標に、火・木・金と週3回、14時～19時にオープンしました。当初は利用者ゼロが続きましたが、近隣小中学校へのチラシ・ポスター配りやSNSの投稿等の広報を行い、平均2・3名の利用を迎えることができました。子ども集めについては地方都市ではなかなか難しいですが、地道にSNSを更新することやチラシを配布することを優先して行い、口コミによる紹介等で行いました。子どもの居場所では勉強と楽しいお話とゲームを主にしています。また、なかなか平日に来ることが難しい子どものために「土曜勉強会」も開催することになりました。



居場所（活動記録（夏のお泊り会））

夏休みは関連企画として「夏のお泊り会」を開催しました。①7月31日（土）・8月1日（日）②8月7日（土）・8月8日（日）と2回開催しました。夏休みにコロナ禍で遊びにも行けず、経験や体験が制限されていましたが、人数を限定してお泊り会を行い、夏休みの思い出をつくることができました。お泊り会の内容としては、食事会、映画鑑賞会、花火大会等を実施しました。参加者はそれぞれ10名。満足度も高かったです。



居場所（活動記録（子ども食堂））

9月より、より活動をひろげるために保健所の営業許可を取得し、「子ども食堂（クル）」の開催をしました。目的は、地域の子ども達・保護者など多世代を対象に、経済的理由や家庭の事情によって、栄養のある食事をとることができない子どもたちや保護者など多世代を支援することです。毎月土曜日に月2回（第2・4）カレー食堂を行いました。カレーと飲み物を来場者に提供しました。食事提供を終えた後、子どもは学習支援や遊びの支援、大人は遊びの支援（ボードゲームなど）、コミュニケーション支援等を行いました。11月からは毎週子ども食堂を開催しています。12月25日までのべ17回開催し、のべ69人の利用者を迎えることができました。



居場所（活動記録（その他））

大人の居場所

11月13日（土）、12月18日（土）と2回実施しました。引きこもりがちの方のためにさまざまな不安・不満・現状などをお茶を飲みながら話し合う機会を設けました。目的は新型コロナウイルス感染症の影響により、孤独・孤立化し、不安や悩みを抱えている引きこもりやニートの大人が多くいることです。

少人数の参加でしたが、参加者同士、なぜ引きこもりがちになったのか、お互いに現状を話し合いました。

LINE 相談

2月よりLINE相談を実施しています。LINE相談は月に5件ほどあります。「困っていること、悩んでいること、うれしかったこと、誰かに話したいこと、周りの人には話せないこと、その他なんでも、ちょっとしたこと」でもお気軽にお話しくださいという形で行っています。内容は人間関係等さまざまですが、相談員が相談者に寄り添いながら行っています。

女性の居場所（関連企画）

9月より月1回実施しました。女性の居場所では、女性相談員のもとさまざまな不安・不満・現状などをお茶を飲みながら話し合う機会を設けています。また、女性用品を配布しております。コロナ禍で収入が減ったことや、外出する機会がへったことなどさまざまな話題があがりました。

引きこもりがちの方のための座談会
大人の居場所 「ケル」

コロナ禍等で2〜3年仕事についていない方
さまざまな不安・不満・現状などをお茶を飲みながら話し合いませんか？
聞くだけの参加でもOKです

日にち 令和3年12月18日（土）
時間 10:00〜12:00
料金 無料 定員 5名

予約方法 お問い合わせは新型コロナウイルス対策のため、予約制になります。定員は先着順です。電話・FAX・メール・LINE等で予約してください。定員をみたしていない場合は当日予約も可能です。

場所 室蘭市旭利別町2-22-31
0143-48-9133 FAX (兼) 0143-48-9133
メール: storyama@kuru2.net
LINE: @081svllb

大人と子どもの居場所クルハウス

LINE LINE相談窓口 無料

ちょっとしたことでお気軽に相談してください

困っていること
悩んでいること
うれしかったこと
誰かに話したいこと
周りの人には話せないこと
その他何でも

北海道室蘭市旭利別町2-22-31
0143-48-9133 FAX (兼) 0143-48-9133
メール: storyama@kuru2.net
LINE: @081svllb

女性の居場所 「ケル」
女性のためのつながりサポート事業

新型コロナウイルス感染症の影響などで、生活や仕事、DV、子育て、介護等といった女性を取り巻く問題により不安を感じたり、悩んだりしていませんか？

交流の場 女性の同士
相談の場 女性相談員による
女性用品の提供 女性相談員から
食事の提供 カレーライスを予定 (子ども食堂より)

日にち 令和3年9月18日（土）以降 10月〜1月までは毎月第2土曜日実施
時間 10:00〜14:00
料金 無料 定員 10名
※女性用品の提供・食事の提供については予約時にお伝えください

予約方法 お問い合わせは新型コロナウイルス対策のため、予約制になります。定員は先着順です。電話・FAX・メール・LINE等で予約してください。定員をみたしていない場合は当日予約も可能です。

場所 室蘭市旭利別町2-22-31
0143-48-9133 FAX (兼) 0143-48-9133
メール: storyama@kuru2.net
LINE: @081svllb

大人と子どもの居場所クルハウス

新聞記事等

地域新聞 北海道新聞 室蘭民報にて掲載されました。

2021年(令和3年)2月5日(金曜日)



大人、子どもの居場所に 相談員ら常駐 就労・学習支援

室蘭のNPO開設

情報通信技術(ICT)を活用した学習支援を行う「くくるネット」が、室蘭市の寺院跡地を活用し、2月2日にスタートする。同ネットでは子どもの学習支援や求職者の就労支援、パソコンを使ったICT(情報通信技術)学習などを無料で実施する。

同ネットによる同事業は、小学生から高校生までの児童・生徒と一人親家庭の保護者、40歳以下の求職者などが対象。寺院跡地を活用した「大人と子どもの居場所クルハウス」と名付けられた施設で行われる。開所日は月15回以上、火～金曜日(うち水曜日は月2回)の午後2時～同7時となる。定員は大人10人、子ども10人。利用料金は無料(事前予約が必要)。有料で施設への送迎も対応する。

島山理事長は「室蘭工業大学の学生スタッフや相談員を配置する。学校の勉強について行けず、不登校になっている人や経済的な理由で学習難に遇えない人、コロナ禍で失業した人やパソコンを学びたい人なども気軽に参加してほしい」と利用を呼び掛けている。

同ネットでは、小学生の勉強支援を手伝ってくれる高校生ボランティアを募集中。利用申し込みや各種問い合わせはクルハウス、電話0143・48局9133番へ(平日午前9時～午後5時)。(北川誠)

寺院跡地を活用して開設する「大人と子どもの居場所クルハウス」

「居場所」2日に開設

学習や就労支援

室蘭・くくるネット

室蘭のNPO法人くくるネット(知利別町、島山晃理事長)による室蘭初の常設型「大人と子どもの居場所づくり」事業が2月2日にスタートする。同ネットでは子どもの学習支援や求職者の就労支援、パソコンを使ったICT(情報通信技術)学習などを無料で実施する。

同ネットによる同事業は、小学生から高校生までの児童・生徒と一人親家庭の保護者、40歳以下の求職者などが対象。寺院跡地を活用した「大人と子どもの居場所クルハウス」と名付けられた施設で行われる。開所日は月15回以上、火～金曜日(うち水曜日は月2回)の午後2時～同7時となる。定員は大人10人、子ども10人。利用料金は無料(事前予約が必要)。有料で施設への送迎も対応する。

島山理事長は「室蘭工業大学の学生スタッフや相談員を配置する。学校の勉強について行けず、不登校になっている人や経済的な理由で学習難に遇えない人、コロナ禍で失業した人やパソコンを学びたい人なども気軽に参加してほしい」と利用を呼び掛けている。

同ネットでは、小学生の勉強支援を手伝ってくれる高校生ボランティアを募集中。利用申し込みや各種問い合わせはクルハウス、電話0143・48局9133番へ(平日午前9時～午後5時)。(北川誠)

寺院跡地を活用して開設する「大人と子どもの居場所クルハウス」

最後に

NPO法人くるくるネットは平成16年5月に地域情報化支援のNPOとしてスタートしました。

当初は、PC教室等行っていました。平成23年に職業訓練事業をスタートしました。職業訓練事業は、来所する訓練生は引きこもりがちであったり、発達面での課題を抱えていたり、経済的に困難な成育環境に置かれることが多く、訓練生のPCスキルは向上する一方、生活面では成果を残せないこともがおおかったです。

そして、令和2年、団体設立から16年経ち、当初の目標であった地域情報化は概ね達成されました。これからはより若年世代の支援が必要であると思い立ち、活動を①ICT（情報通信技術）を生かした職業訓練を行うこと、②放課後デイサービスを通じた発達面での支援を行うこと③居場所事業を通じた社会的な孤立や学習面でのサポート立ち上げを行うこととしました。

居場所活動については、1年間の活動を終えて、成果としては、利用者から①学校の授業でわからないところがわかるようになった、②居場所にいることが楽しいという嬉しい声も寄せられることもありました。また、不登校で学校に通えていない生徒が居場所に通うようになったりすることもありました。

課題としては、立ち上げ初年度は少人数を丁寧に受け入れてきましたが、より開所日数や受け入れ人数を増やしていきたいと思います。一方で、マンツーマンに近い体制であるからこそ、手厚く、安心感を持って通ってもらえている様子もあるため、拡大のペースについて気を付けたいと思います。

職員や有償ボランティアの採用育成の体制を確立中のため、丁寧に体制整備を進めていきたいと思います。

令和2年度を開設初年度として、2年、3年、4年とパワーアップして利用者にとって安心して過ごせる、楽しんで過ごせる居場所を作っていきたいと思います。

年間を通じて、さまざまな方に協力いただきまして大変感謝しています。室蘭市役所のみなさま、室蘭市教育委員会のみなさま、近隣の小中学校のみなさま、伴走パートナーとして、室蘭NPO支援センターのみなさま、北海道NPOサポートセンターのみなさま、Code for Japanが主催するNP Tech studioのプロボノの専門人材のみなさま大変ありがとうございました。